図書館通信

静岡大学附属図書館報

No.150

2005.4

●図書館で過ごす至福の時間　●シリーズ“すばらしい本の世界”　●蔵書検索法の変遷と図書館通信150号の歴史
●シリーズ“！”第17回 資料のアドレスを知る！！　●平成17年度購入学生用雑誌について
●図書館の動き　●図書館からのお知らせ

図書館で過ごす至福の時間

附属図書館長　小和田哲男

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。受験勉強から解放されて、「あれもやりたい」「これもやりたい」と、夢をお持ちのことと思います。

高校までのほぼ画一的な一律の授業ではなく、大学では決まった時間割はありません。授業をどのように選ぶか、つまり、時間割を自分で組むことになります。そして、その場合、これも高校までの生活とは大きくちがう点なのですが、授業が朝から夕方までびっしり詰まるということはほとんどありません。いわゆる「空き時間」ができるのがふつうです。皆さんは、その「空き時間」をどう過ごすつもりですか。

新らしくできた友達とおしゃべりをする。それもいいでしょう。毎年、卒業していく卒業生の何人かが、「大学で得たことは、専門の知識だけではなく、生涯の友人を得たことだ」と語っていることからも、友達づくりは大事です。

しかし、たまには一人になってみませんか。それも、自宅や下宿にもどって一人になるのではなく、大学の構内で。大学構内で、授業と授業の「空き時間」、あるいは、授業のあと、一人きりになることのできる場所、それが図書館です。

大学の図書館は、高校までの図書室とは全くちがうものと考えてください。蔵書数は桁ちがいに多いですし、広さも全然ちがいます。

静岡大学はご承知の通り、1949年に新制大学としてスタートしていますが、たとえば、歴史が一番古い静岡師範学校(教育学部の前身)でみると1875年の創立で、実に130年の伝統があり、図書館にはそのころからの蔵書が引継がれてい

ます。まさに、静岡大学附属図書館は近代静岡の歴史とともに歩んできた「知の宝庫」といっても過言ではありません。

静岡大学に入学された皆さんは、この「知の宝庫」を思う存分使うことができるのです。また、数ある蔵書の中に、現在、教鞭をとられている先生方の著書も含まれています。教員が書かれたり、編集されたりした本を、それぞれの教員から附属図書館に寄贈していただいており、たとえば、授業を受けることになった先生が、具体的にどのような研究をされているのかを知ることができますし、受講したときの理解度も深まるのではないかと思われます。

また、そのような目的を特に持たずに、図書館に時間つぶしに来る方もいるかもしれません。図書館はそういう学生さんも大歓迎です。新聞・雑誌コーナーなどは、「ちょっと授業で頭が疲れた」と、お茶こそ出ませんが、喫茶室代わりに使える空間になっていますので、利用の仕方はいろいろです。

ところで、そろそろ、この原稿のタイトルに掲げた「至福の時間」にふれたいと思います。私自身の学生時代のことを思い出すと、図書館イコール「至福の時間」だったのです。

なぜ「至福の時間」だったかというと、まず一つ目は、図書館に行けば読みたい本があったということです。特に高価な本は学生の身では買うことなどできなかったので、大助かりでした。私の専門は日本史ですが、「戦国合戦図屏風」がいくつも入った美術豪華本を見ては、戦国時代にタイムスリップしたような楽しい経験をさせてもらいました。まさに「至福の時間」です。

二つ目は、図書館で一人きりになって、それこそ物思いにふける時間がもてた点です。私の場合、自宅通学だったので、学校でめいっぱい話し込んだりすると、家に帰ってまた家族と会話をすることになり、結構大変でした。授業が終わって家に帰るまでの一時間ないし二時間、一人、図書館で本を読み、本を読むのに疲れれば、あれやこれやいろいろと考えることができ、それは、すぐには成果として出るというものではありませんが、長い目でみると、貴重な経験だったかなと思っています。

図書館には、そうした物思いにふける人もきているので、おしゃべりしたりせず、静寂が保たれる必要があるわけです。

そして、三つ目。これは、ある程度学年が進んでからとなりますが、調べものをするために図書館を利用したときの「至福の時間」といっていいかと思います。

自分がたてた仮説を証明できそうな資料を見つけたときの喜びは、なかなか文字でうまく表現できませんが、「ヤッター！」といった気分になることも少なからずあります。もちろん、くる日もくる日も図書館で史料をめくり、徒労に終わることも少なくありません。しかし、徒労に終わることが多いだけ、いい史料が見つかったときの喜びはひとしおです。

以上、私自身の体験を通して、図書館で過ごす時間がどうして至福の時間なのかを紹介してきました。もちろん、これはあくまで私の体験ですので、もっと別な過ごし方は当然あると思います。

皆さんがこれから、図書館をどう使うかは皆さん次第なのですが、使いこなすためには図書館のことをよく知っておく必要があります。新入生の必須科目となっている新入生セミナーの一コマを使って、図書館の基本的な利用方法を伝授する「附属図書館利用セミナー」がありますので、まずはそれを受講して下さい。

そして、順次、インターネットを使っての情報検索の方法も修得していけば、静岡大学附属図書館にない他大学、他公立図書館などの図書資料も居ながらにして読めるようなりますし、視聴覚関係の機器も使いこなせるようになります。

静岡大学での自分の居場所の一つに、是非、附属図書館を加わえて下さい。

すばらしい本の世界

"one that loved not wisely, but too well"

棚橋　克彌

［手の届くところに本があるありがたさ］ 子どものころ町の本屋は遠く、出かけようにも6キロの道を歩くしか方法がなかったし、そもそも小遣いをもらうことがなかったから、自分で好きな本を買って読む習慣はなかった。けれども幸いなことに、身近に本はあった。曽祖父母の代から医者や教師が多かったせいかもしれない。いまでも奇異の感をいだくことだが、明治時代に発行された漢籍や春陽堂（？）の世界文学全集にまじって、シェイクスピアの『冬の夜ばなし』（*The Winter's Tale*）があった。誰がどんな目的でこのシェイクスピア後期の作品を入手したのか，両親に聞きそびれて今にいたってしまった。もはや確かめるすべはない。

岩波書店の漱石全集も自宅の書棚にならんでいた。作品をどういう順に読んだか忘れてしまったが、読みはじめたのは中学校にはいってまもなくだったと思う。とにかく全部読んだ。断簡零墨にいたるまで。どの作品を読んでもすでに読んだ人の感想がページの余白に書かれていて、他人のこころのうちをのぞいて見る思いがした。おとなの世界を瞥見したということだったのだろうが、いまでもあの時の胸の鼓動がよみがえる。

ひとりの作家の断簡零墨のはてまでも読むたのしさまたは重要さは、誰かに教えられたわけではない。高校にはいると、漱石につづいて、こんどは岩波の芥川龍之介の全集を読んだ。兄嫁の嫁入り道具のなかにそろっていたから。どちらかといえば行動派で、兄嫁自身はただ買っただけで目を通さなかったのかもしれないが、わたしは通読した。そして「河童」とか「鼻」などの短篇を通して知る芥川と「文ちゃん」という呼びかけではじまる婚約者、塚本文宛のラヴレターを通して知る芥川とを、わたしは相補的にとらえて、一歩自分がおとなになった気分がした。

兄嫁のおかげで現代日本文学全集（筑摩書房）も読むことができた。全体で９７，８巻からなるこの全集は、わたしの高校時代はまだ刊行の途中であったが、それでもすでに大半が出版されていて、わたしは学校の勉強はそっちのけで、夜ふとんにはいって、右目を下にした姿勢で、暗い電気スタンドの光のなかでかたっぱしから読んだ。中学時代から近視が進行していたが、こういう読書のしかたはさらに目を悪くし、しかも左右が度のちがう眼鏡をかける始末となってしまった。

戦前ほどではなかったのだろうが、文学作品を読み耽る者は軟弱の徒であるという気風が、わたしの中学、高校時代にはまだ強くのこっていた。が、わたしはそんなことには気をとめず、文弱な思春期をおくった。それをふりかえって評価すれば、功罪相半ばすることだろうが、罪はさておき、功のひとつは手の届くところに書物があることの意義を自覚できたことである。それ以上によかったのは、書物を通してひとりの人間の全体像を把握することの意義を自覚できたことである。対象は作家にかぎらない。研究者の著作についても同様である。その後、著

者の学識や語り口にひかれて、専門外ではあるけれども林達夫著作集 全6巻（平凡社）、井筒俊彦著作集 全11巻別巻1（中央公論社）、丸山眞男集　全16巻別巻1（岩波書店）などの全集にとりくんだのは、中、高校時代に覚えた読書法の結果である。

［書痴ならぬ辞書痴］ 日本国語大辞典によれば、書痴とは「読書ばかりしていて、他を顧みない人を悪くいうことば」である。さしずめ、わたしは辞書痴である。外国文学を専攻すれば、各種辞典は手放せない。本格的に勉強するようになって以来、内外の辞書との出会いについては、ちょうど人との出会いがそうであるように、思い出はつきない。総じて、わたしには、編者の人間くささが伝わってくる辞書を好む癖があるようだ。

国語辞典を例にとれば、評判の新明解（三省堂）。最近、第六版が出版された。大学生になったから、もう国語辞典は不用だなどときめつけず、身近において活用すべきだろう。

本業に関わる英語の辞書はいちいちあげきれない。大学2年次にシェイクスピア演習を受講し、シェイクスピアのおもしろさにはまってしまい、廉価版のテクストを買って、全37篇（近年2篇があらたにシェイクスピアの作品とされた）の劇を読んだ。その際テクストとともに持ち歩いたのは、*A Shakespeare Glossary* である。シェイクスピアは400年前の劇作家、その英語を読む場合、現代英語の意味で読んでしまうと誤解する。たとえば、danger は当時、［主君の］力、損傷、危害の意味で使われた。この意味はいまや老廃語である。シェイクスピア講読の必需品である、この辞典を編集したのはC. T. アニアンズ。この先生は有名なオックスフォード英語辞典（*OED*）の編者で、その中からシェイクスピア関係の語句をとりだしまとめたものが上記の辞典である。

この辞典とその親辞典にあたる *OED* を調べない日がないくらい、わたしはいまでも毎日のように利用している。そして、毎日のように発見のよろこびを味わっている。

要は、わからないことを調べるためにだけ辞書をひくのでなく、辞書には読むたのしみがあるといいたいのだ。

［読書の効用、ふたつ］ おもしろい本を読んだら、そのおもしろさを他人に伝えることである。これは相手とのコミュニケーションのいとぐちとなると同時に、自分はなにをおもしろいと思い、相手はなにをおもしろいと思うか、互いのちがいを明らかにするきっかけとなる。人の興味や関心のありようにこそ、その人の個性はあらわになるのだから。

精神が固着した状態からぬけだす方法は人それぞれだろうが、わたしが愛用するのは、いわゆる娯楽作品を3，4冊、いっきに読む法である。わたしがこのような時機に選ぶのは時代小説や推理小説であるが、これによってストレスが解消されるばかりではない。牧文四郎（藤沢周平『蝉しぐれ』）や鮫島警部（大沢在昌『新宿鮫』）やマーロウ（レイモンド・チャンドラー『長いお別れ』）など魅力的な人物との出会いがあった。

（題名はシェイクスピア『オセロー』からの引用）

（教育学部・英語教育）

【紹介された本】（静=静岡本館／浜=浜松分館）

『冬の夜ばなし』（The Winter's Tale）シェイクスピア著　坪内逍遥訳　静／閉架[932/SH12/36]

『冬物語』（The Winter's Tale）シェイクスピア著　小田島雄志訳　浜／開架[932/SH12/35]

『オセロー』シェイクスピア著　静／開架[932/SH12/S27]

※　開架・閉架両方にある場合は開架のみ表示

（シェイクスピア全集他あり）

浜／開架[908.3/40.75]（世界文学大系12）

『漱石全集』(岩波書店）静／閉架[918.6/N58/1-18]他　浜／開架[918.6/42/1-35]

『芥川龍之介全集』（岩波書店）　静／開架[918.6/A39/1-12]

（筑摩書房）　浜／開架[918.68/29/1-9A]
『現代日本文学全集』（筑摩書房）
静／閉架[918.6/C44/1-97]
『林達夫著作集』　静／開架[081.8/H48/1-6]
『井筒俊彦著作集』　静／開架[120.8/I99/1-11,A]
『丸山眞男集』　静／開架[310.8/MA59/1-16,A]
浜／開架[081.6/MA59/1-16,a]
『新明解国語辞典』
静・浜／参考[813.1/SH64](静岡は6版もあり)
『A Shakespeare Glossary』静／参考[932/SH12O]
『Oxford English Dictionary』
静・浜／参考[833/O93/1-20]
『日本国語大辞典』　静／参考[813.1/N77/1-13,A]
浜／参考[813.1/N71/1-13,a]

蔵書検索法の変遷と図書館通信150号の歴史

今回で図書館通信が150号となる。創刊は1970年1月。35年前というと大部分の学生諸君は生まれていないばかりか、両親もおそらく結婚前の甘酸っぱい青春時代を謳歌していた頃ではないだろうか。長い年月である。14/15合併号（1972年４月発行）では、初めて新入生向けの図書館利用ガイドを載せていてその巻頭にクイズを出している。「○○を調べるにはどのような参考書を用いればよいのか」という設問なのだが、現代の学生ならば全部インターネットでと答えるだろうな。もちろんその頃はインターネットどころか蔵書検索にもカードを用いていた。

今でも全蔵書の入力が済んでいないため古い図書を検索するにはカード検索も必要である。静岡本館では雑誌のコーナー及びロッカーの傍に、浜松分館ではカウンター近くにカードボックスがある。カードの検索法は訓令式のローマ字さえ分かれば簡単にできる。そのためだろうか、図書館通信にはほとんど検索法についての言及がない。それが一変するのは図書館業務の電算化が始まり端末からの蔵書検索が始まった1988年である。例えば84号（1988年７月発行）の「利用者端末現行学－３ヶ月を経過して－」。日常的にインターネットの検索エンジンを使用している現在の利用者と違って、コンピュータ導入当時の利用者の戸惑いがわかる。また、1994年にシステムが変わり、検索システムの変更があった。それを解説しているのが「新システム特集号」と銘打った105/107合併号（1994年３月発行）。この号のもう一つの特徴は手書き（！）であるということ。そしてこの号を最後にして版がＢ５からＡ４と大きくなる。

現在も続いている「シリーズ“！”」だが、132号（2000年７月発行）の第1回では蔵書検索法を取り上げている。しかし、この後新しいシステムになったため、再度第12回でも検索法を取り上げている（144号2003年７月発行）。これが現在のＯＰＡＣ（静大蔵書検索）の利用法である。

カードからＯＰＡＣへ。検索は便利になった。例えばカード時代はタイトルがはっきりと判っていないと検索できなかったが、現在はタイトルがあやふやでもタイトルの中に含まれる単語さえ判ればそれで検索できる。ある分野の図書を探すときも、その分野のキーワードを入力し検索した図書の請求記号を調べると関連する図書の配架場所が判明する。（請求記号と日本十進分類法については次頁の「シリーズ“！”」に説明があります。）２年後に再びシステム更新の時期を迎える。その時、より進化した検索法を利用者に提供できればと思っている。

（情報システム係長・小濱進）

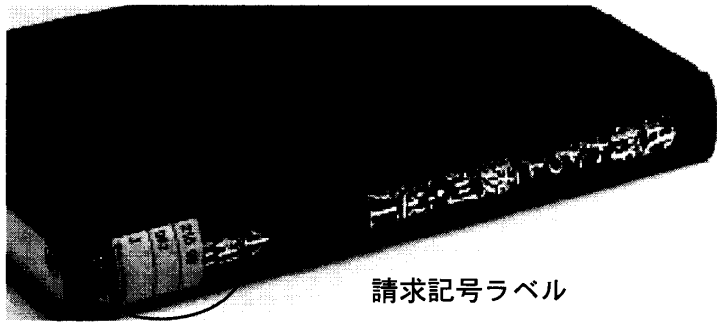
※図書館通信は創刊号より図書館ホームページで見ることができます。

シリーズ“！”第17回

資料のアドレスを知る！！

～請求記号の見方について～

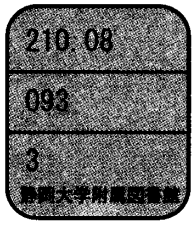
図書館の資料は、決められた順序に従って書架に配置されています。どのような順序で資料を並べるかについては、様々な方法があります。資料の古い順、図書館に受け入れた順、大きさ順、などなど。このように資料を書架に配置することを図書館では**配架**と呼んでいます。
それでは実際に、静大の図書館では資料をどのように配架しているでしょうか。図書と雑誌に分けて見ていきましょう。



請求記号ラベル

図書

図書は背表紙に貼ってあるラベルの順序に並んでいます。このラベルに書いてある番号や記号のことを**請求記号**と呼んでいます。請求記号ラベルは3段からなり、それぞれ別の意味があります。



—— ①分類番号（1段目）
—— ②著者記号（2段目）
—— ③シリーズ番号等（3段目）

① 分類番号（1段目）

1段目は日本十進分類法 = Nippon Decimal Classification（略してNDC）によって主題ごとに並んでいます。NDCは国内の大半の図書館で用いられている分類法です。主題を10ごとに区切り、その中をさらに10ずつ区切っていきます。そのようにして、3ケタの数字で表され、さらに主題を細かく分ける場合はコンマ以下に数字を展開していきます。「210.08」は「にひゃく じゅう てん ぜろ はち」ではなく「にい いち ぜろ てん ぜろ はち」と読みます。

NDCのしくみ

1ケタ目
0 総記（図書館、百科事典、叢書など）
1 哲学（哲学、心理学、倫理学、宗教）
2 歴史（歴史、伝記、地理、紀行）
3 社会科学（政治、法律、経済、社会、教育など）
4 自然科学（数学、理学、医学）
5 技術（工学、工業、家政学）
6 産業（農林業、水産業、商業など）
7 芸術（美術、音楽、体育など）
8 言語
9 文学

2ケタ目
20 歴史
21 日本史
22 アジア史
23 ヨーロッパ史
24 アフリカ史
25 北アメリカ史
26 南アメリカ史
27 オセアニア史
28 伝記
29 地理、地誌、紀行

3ケタ目
210 日本史
211 北海道地方
212 東北地方
213 関東地方
214 北陸地方
215 中部地方
216 近畿地方
217 中国地方
218 四国地方
219 九州地方

② 著者記号（2段目）

2段目の著者記号は聞きなれない言葉ですね。著者記号は、著者のヘボン式ローマ字（西洋人は原綴り）をアルファベットと数字を組み合わせた記号に変換したものです。著者が「小和田哲男」の場合は、姓のヘボン式ローマ字が「OWADA」なので著者記号は「O93」になります。つまり、同一著者の図書は同じ場所に配架されることになります。ただし，年代の古い資料には著者記号ではなく，受け入れ順番号で表されているものもあります。

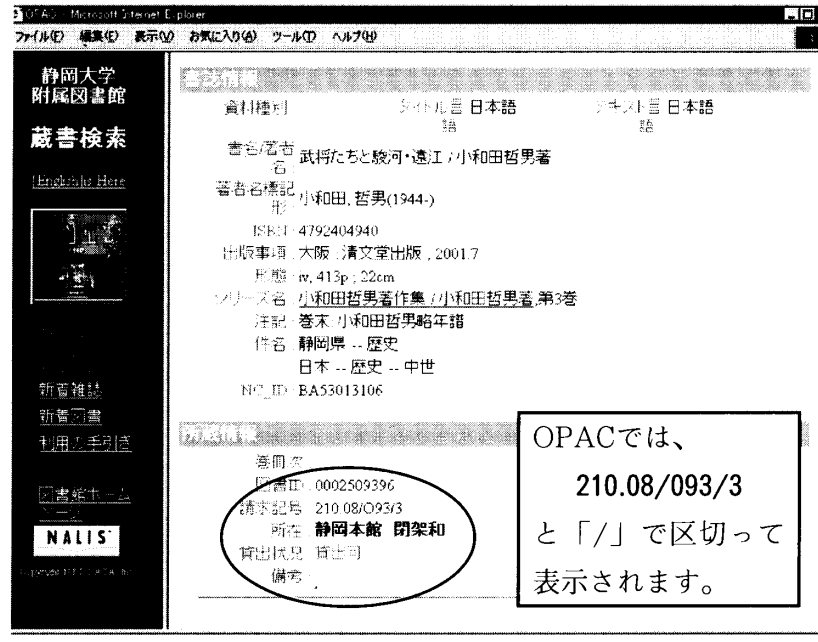
静大で用いている著者記号にはいくつか例外があります。まず著者が多数の場合は、書名で著者記号を表します。また、伝記や哲学者、宗教家、芸術家、文学者などについて書かれている図書は、書かれた人物の著者記号を表し、その後に著者の頭文字を付けます。例えば、「小沢○○」について「佐藤△△」という著者が書いた場合、著者記号は「O97S」となります。

日本著者記号表

OU	→	O91
OUR	→	O92
OW	→	O93
OY	→	O94
OYAM	→	O95
OZ	→	O96
OZAW	→	O97
OZE	→	O98
OZO	→	O99

③ シリーズ番号など（3段目）

3段目は全集や叢書などの番号を表します。「小和田哲男著作集」の第3巻は、請求記号の3段目が「3」になります。全集の別巻や索引などは「A」で表しています。また、本館では一般の図書とは別の場所に配架してある図書の3段目の最初に特定の記号を記しています。それには文庫「B」、新書「S」、東洋諸言語資料「T」、留学生用図書「R」、考古資料の県名や視聴覚資料などがあります。



OPACでは、
210.08/093/3
と「/」で区切って表示されます。

3段目は1、2段目と異なり必要がある場合にだけ用いられますので、むしろ空欄の図書のほうが多くなっています。

雑　誌

それでは雑誌の配架順はどうでしょうか。実は図書よりも簡単で、雑誌はすべて誌名のアルファベット順に並んでいます。しかし、注意する点があります。日本語の誌名は訓令式ローマ字で並んでいるということです。ローマ字法が異なる訳は、昔からの静大のそれぞれの整理方法をそのまま受け継いでいるためです。ヘボン式と訓令式の違いに気をつけてください。

ヘボン式と訓令式の主な違い

	シ	チ	ツ	フ	ジ	シャ行	チャ行	ジャ行
ヘボン式	Shi	Chi	Tsu	Fu	Ji	Sha・Shu・Sho	Cha・Chu・Cho	Ja・Ju・Jo
訓令式	Si	Ti	Tu	Hu	Zi	Sya・Syu・Syo	Tya・Tyu・Tyo	Zya・Zyu・Zyo

今回は請求記号について説明しました。資料を探したり、元の場所に戻す手助けとしてください。

平成17年度購入学生用雑誌について

学生用雑誌に関するアンケートに様々なご意見をいただきありがとうございました。
今後も学生用雑誌に関するアンケート等を実施し、学生用雑誌の構成を考慮しながら継続して購入雑誌について整備を計っていきますのでご協力をお願いいたします。

○静岡本館

静岡キャンパスの学生及び教員に対してアンケートを実施させていただきました。学生400名（各学部・研究科の所属学生数に比例して抽出）にアンケートを依頼し、平成16年７月12日（月）から８月６日（金）の期間に回答をいただきました。回答数は147名で回答率は36.8%でした。

教員(職員録に掲載されている静岡キャンパスの全教員〔助手以上〕対象)に対しては、学生へのアンケート結果を参照のうえ、平成16年10月４日(月)から10月29日(金)の期間に回答をいただきました。

○浜松分館

浜松キャンパスでは、館内掲示で呼びかけ、平成16年11月15日から平成16年11月30日の期間「学生用雑誌利用調査アンケート」を実施させていただき、22名の学生から回答をいただきました。

分館においてはこのアンケート結果を踏まえ、「平成18年度購入学生用雑誌」の選定を行っています。

静岡本館学生用雑誌リスト　静岡本館４階雑誌コーナー配架　（平成17年４月現在）

※は平成17年度新規購入

総合誌

Aera = アエラ
文藝春秋
現代のエスプリ
National geographic = ナショナルジオグラフィック
National geographic（英文）
Newsweek = ニューズウィーク日本版
Newsweek（英文）
Sapio
世界
※諸君
Time:the weekly newsmagazine（英文）
中央公論
United States news, world report（英文）
※環：歴史・環境・文明

芸術・スポーツ系

アサヒカメラ
BT：美術手帖
演劇界
藝術新潮
Grand opera = グランドオペラ
※邦楽ジャーナル
キネマ旬報
みんなのスポーツ
Number =ナンバー：スポーツグラフィック
音楽の友
レコード芸術
テアトロ：綜合演劇雑誌
山と渓谷

社会科学系

部落解放
月刊福祉
月刊国民生活
月刊人民中国
現代コリア
季刊民族学
厚生労働
教育
教職課程
日本統計月報
世界の勞働
Trendy = 日経トレンディ
労働運動
児童心理
人権と部落問題

法律・経済系

エコノミスト
ジュリスト
判例評論
判例時報
法学教室
法学セミナー
法律のひろば
法律時報
経済セミナー
経済資料研究
私法判例リマークス（法律時報：別冊）
受験新報

自然科学系

Asahiパソコン
ASCII = アスキー
月刊天文
現代農業
科學
科学史研究
こころの科学
Nature（英文）
Newton = ニュートン
日経サイエンス
人間工学
農業および園芸
農業と經濟
Popular mechanics（英文）
Science（英文）
畜産の研究
情報の科学と技術

数学・物理・化学・地球科学・生物系

現代化学
月刊海洋
月刊地球
化學
化学と教育
化学と生物
環境と公害
昆虫と自然
パリティ = Parity: physical science magazine
理系への数学：高校・大学生のための数学の道
生物科学
数理科学
数学
数学セミナー

人文科学系

文藝
月刊文化財
現代思想
群像
東アジアの古代文化
ふらんす
歴史學研究
歴史評論
理想
新潮
思想
昴
地理
地図
東洋学術研究

語学・文学系

文學
文學界
英語教育
英語青年
月刊言語
月刊日本語
現代詩手帖
俳句
国文学解釈と鑑賞
日本文学
日本語ジャーナル
日本児童文学
詩学
短歌
ユリイカ：詩と評論

その他

榮養と料理
学術月報
博物館研究
本の雑誌
暮しの手帖
毎日ライフ
Mode et mode
就職ジャーナル
旅
たしかな目

---

§東部学生用図書選定部会で選定された結果、以下のとおり決定いたしました。

平成17年度より購読中止

婦人公論
婦人通信
日本古書通信
Sports illustrated

平成17年度より新規購入

環：歴史・環境・文明
諸君
邦楽ジャーナル

平成18年度より購読中止

Popular mechanics

浜松分館雑誌リスト　2階新着雑誌コーナー配架　（平成17年4月現在）

総合誌・その他

Newsweek (英文)
Time (英文)
Aera = アエラ
インパクション
学術月報
週刊朝日
情況. 第三期
世界
週刊金曜日
中央公論
文藝春秋
Mono：モノ・マガジン
論座
National geographic = ナショナルジオグラフィック

人文科学系

新潮
アサヒカメラ
Intelligence＝インテリジェンス
音楽の友
季刊銀花
Galac = ぎゃらく
月刊言語
現代思想
現代のエスプリ
思想
ソシオロジ
旅
Number = ナンバー：スポーツグラフィック
メディア史研究
山と渓谷
歴史評論

社会科学系

エコノミスト
技術と人間
経済
経済セミナー
月刊世論調査
社会学評論
ジュリスト
新聞研究
地域社会学会年報
都市問題
日本労働社会学会年報
法学教室
放送研究と調査
法律時報

工学・産業

Journal of chemical engineering of Japan (英文)
Journal of the Japan Petroleum Institute (英/和)
化学工学
化学工学論文集
化学と工業
環境と公害
機械の研究
空気調和・衛生工学
月刊地球環境
航空技術
自動車工学
電子情報通信学会誌
電子情報通信学会論文誌. A, 基礎・境界
電子情報通信学会論文誌. B, 通信
電子情報通信学会論文誌. C
電子情報通信学会論文誌. D-I, 情報・システム, I-情報処理
電子情報通信学会論文誌. D-II, 情報・システム, II-パターン処理
人工知能学会誌
情報の科学と技術
情報処理
電気化学および工業物理化学
電気学会技術報告
電気学会論文誌. A, 基礎・材料・共通部門誌
電気学会論文誌. B, 電力・エネルギー部門誌
電気学会論文誌. C, 電子・情報・システム部門誌
電気学会論文誌. D, 産業応用部門誌
電気学会論文誌. E, センサ・マイクロマシン準部門誌
電気学会誌
トランジスタ技術
日経エレクトロニクス
日経情報ストラテジー
日経バイト
ロボコンマガジン

自然科学系

Nature (英文)
Science (英文)
Bulletin of the Chemical Society of Japan (英文)
Chemistry letters (英文)
Journal of the Physical Society of Japan (英文)
応用物理
科學
科学史研究. 第II期
月刊天文ガイド
現代化学
大学への数学
数学
日経サイエンス
日本物理学会誌
日本音響学会誌
Newton = ニュートン
理系への数学：高校・大学生のための数学の道

図書館の動き

◆会　議

平成16年度第３回静岡大学附属図書館委員会

平成17年２月17日（木）

○審議事項

1．平成17年度予算について

○報告事項

1．平成17年度の附属図書館開館日程について
2．夜間開館(本館)におけるサービス時間の変更について
3．平成17年度附属図書館利用セミナーについて
4．その他
・大学ネットワーク静岡について
・電子ジャーナル＆二次資料データベース利用状況について
・その他

◆講演会

平成16年度図書館講演会

平成16年12月３日（金）

（参加者：10館21名）

静岡県大学図書館協議会と静岡大学附属図書館の共催でペガサート６・７階の静岡市産学交流センター（B-nest）にて講師２名をお招きして開催された。

静岡県内の大学図書館関係者が集まり、前半は慶應義塾大学国際センター事務長の加藤好郎氏による「図書館の経営戦略と専門職育成」と題する講演、後半は静岡県教育委員会社会教育課社会教育主事の柴雅房氏による「ビジネス支援図書館についての静岡県の取組」と題する講演で、いずれも大変有意義な講演が行われた。引き続き平成16年９月にオープンした静岡市立御幸町図書館（ペガサート４・５階）を見学した。

◆研修会

平成16年度実務研修会

平成17年１月18日（火）

（参加者：14館23名）

静岡県大学図書館協議会主催でペガサート６・７階の静岡市産学交流センター（B-nest）にて静岡県内の大学図書館関係者が集まり開催された。

今回は「図書館における危機安全管理を中心に来館者サービスに関する諸課題」と「図書館ホームページを活用しての情報提供を中心に、電子情報に関する諸課題」の２つを主なテーマとしてとりあげた。

この２つのテーマについて、午前は話題提供として大学図書館連携の最近の状況及び大学図書館と地震について説明された。午後はテーマごとに分かれてグループ討議が行われた。各グループとも活発な情報・意見交換が行われ今後に向けての課題認識を新たにした。

（グループ討論の様子）

◆人事異動

平成16年２月12日付 退職［任期満了］
　橋本　智子（レファレンス係）

平成17年３月１日付 育児休業終了［職務復帰］
　松下　昭重（レファレンス係）

〈４月から夜間開館(本館)の書庫内資料利用時間が変わります〉

書庫への入室時間（平日：月曜日-金曜日）
19：00まで（従来20：00まで）

書庫内資料の窓口出納時間（平日：月曜日-金曜日）
19：00まで（従来18：00まで）

平成17年度
「附属図書館利用セミナー」実施のお知らせ

新入生セミナーのひとコマを利用して、図書館の基本的な利用方法を習得してもらいます。これをきっかけに図書館へ気軽に足を運んでいただき、今後の学習・研究に活用していただきたいと思います。

◆実施時期　：　平成17年４月中旬～７月上旬　　（静岡•浜松両キャンパス）
（セミナー実施日は新入生セミナー担当教官ごとに決まっています。）

◆内　　容　：　１．図書館の利用法
２．パソコンによる検索実習
３．書庫内ツアー（静岡キャンパス）、館内ツアー（浜松キャンパス）

◆実施場所　：　静岡キャンパス　　図書館５階第２閲覧室（ハーベスト・ルーム）
浜松キャンパス　　図書館２階視聴覚室（ＳＣＳメディアルーム）

（セミナー期間中はハーベスト・ルーム及びＳＣＳメディア・ルームの利用制限があります。）

なお附属図書館利用セミナーを受講できなかった新入生及び学部編入生については別途にライブラリー・オリエンテーションの開催を予定しています。詳細は図書館ホームページと掲示板にてご案内する予定です。

開館カレンダー（静岡・浜松共通）

2005年４月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	
	11	12	13	14	15	
	18	19	20	21	22	
	25	26	27	28		

2005年５月

日	月	火	水	木	金	土
	2				6	
	9	10	11	12	13	
	16	17	18	19	20	
	23	24	25	26	27	
	30	31				

2005年６月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	
	6	7	8	9	10	
	13	14	15	16	17	
	20	21	22	23	24	
	27	28	29	30		

2005年７月

日	月	火	水	木	金	土
					1	
	4	5	6	7	8	
	11	12	13	14	15	
		19	20	21	22	
	25	26	27	28	29	

□ 開館　平日　9:00～22:00

■ 開館　土・日・祝日　9:00～19:00

□ 休館（蔵書点検）

※　開館日・開館時間は変更されることがあります。
臨時に休館する場合は別途お知らせします。

静岡大学附属図書館報「図書館通信」第150号　　（平成17年３月31日発行）
発行所　静岡大学附属図書館　　URL http://www.lib.shizuoka.ac.jp/
〒422-8529　静岡市大谷836
Tel.054-238-4477 Fax.054-238-5408　（再生紙使用）
古紙配合率100%再生紙を使用しています